

Young Women Scientist Camp & Smart Sister Workshop 参加報告

高澤 理子（東京農工大学 農学府応用生命化学専攻 修士1年）

小島摩利子（東京工業大学 生命理工学院 修士1年）

開催日：8/24（金）-26（日）

場 所：韓国、大田広域都市、University of Science and Technology (UST)

参加国：韓国、日本、モンゴル、台湾、スリランカ、ネパール、インド、マレーシア、タイ、ニュージーランド、ウガンダ、モロッコ、パキスタン、オーストラリア、ベトナム、バングラデシュ、ガーナ、ルワンダ、ベラルーシ、エチオピア、カザフスタン、スーダン、イギリス、中国、カナダ

1 日目

1 日目には Technical Tour, Invited Lecture I, II, Poster Presentation I, Welcoming Dinner が企画されていた。

いちばんはじめの Technical Tour では、大田にある研究機関を訪問・見学した。大田には韓国国内でも多くの研究機関が集まっており、プログラム参加者は3つの研究機関[Korea Research Institute of Standards and Science (KRIS), Korea Aerospace Research Institute (KARI), Korea Basic Science Institute (KBSI)] から1つを選択することができた。私は KBSI を選び、巨大な透過型電子望遠鏡を見学させていただいた。

大学に戻り、2つの Invited Lecture を受けた。どちらも女性科学者のやる気を奮い立たせるような内容だった。「将来のキャリアを考えていくうえで大事なこと」について聞くことができた2つ目の講義は特に面白く、非常に心を打たれた。

続いて Poster Presentation I。生物から物理、化学、情報系まで、様々な専門分野の人が集まっていた。専門が違いすぎて、私は少し質問するのに躊躇してしまった。頑張っても研究の本質の理解に到達できず、大した議論ができなかったのが悔やまれる。しかし様々な人とコミュニケーションを取るきっかけとして良い機会だったと思う。

Welcoming Dinner では、韓国の伝統的な踊り、音楽を鑑賞した。豪華なビュッフェと共に、この日新しくできた友人と談笑した。

（高澤）

2 日目

この日は Opening Ceremony に始まり、2つの Keynote Speech, One Minute Pitch, Poster Presentation II, K-Pop Dance, Country Exhibition が行われた。

INWES 前代表・Kong-Joo Lee 氏の Keynote Speech では、研究を有意義にするためには「自分の専門分野でプロになること」、「他分野と協力していくこと」が必要であり、そのいずれにおいても「コミュニケーション」が重要であると教えていただいた。さらに、「コミュニケーションスキルにおいて女性は非常に有利で、女性は研究に向いている」というお言葉に背中を押された。2つ目の Keynote Speech は「理系女性組織の歴史」についてであり、世界情勢と理系女性の社会進出の関係などを学んだ。

昼食の後、Smart Sister Program の一環として Regional Presentation が行われた。ここで、韓国で在学・勤務するアジア各国の参加者により、韓国での生活や自国の学生生活、観光名所などの紹介が行われた。

続いて行われた One Minute Pitch (OMP)は、自分の研究を1分間のスピーチにまとめて発表するというイベントである。短い発表時間に伝えたい内容を収めるのが課題で、英語に慣れていない私は1分間に話せる語数が少ないため、特に要点を絞って原稿を作文する必要があった。流暢に英語を話す他の参加者のスピーチを見て緊張しながらも、準備したスライドを使ってはきはきと発表することができた。こ

の後 Poster Presentation II があり、研究発表を行なった。自分のポスターの前で立ち止まる人に積極的に声をかけ、できる限り丁寧な説明を心がけた。参加者の専門分野は非常に多岐にわたるため、基礎的な内容から丁寧に説明するのが重要だと感じた。

ポスター発表の後は、K-Pop Dance のレッスンを受けた。ダンスの講師は韓国のダンススクールの先生で、例年 YWS Camp で K-Pop を教えているようだ。K-Pop にはなじみがなく、初めはダンスするのも気恥ずかしく思っていたが、先生の天真爛漫でユニークな指導のおかげで、自然と笑顔になってしまうほど楽しかった。また、音楽やダンスに国境はないことを再確認した。

夕方の Country Exhibition では、あらかじめ用意された各国専用ブースを装飾し、自分達の国の紹介を行なった。私達は浴衣を着て、ブースには、東京の街を描いたイラストマップや日本の伝統的なおもちやであるけん玉、百人一首かるたを置き、折り紙の鶴で飾り付けた。マップは東京の名所を説明するのに非常に役に立った。また、日本のアニメ文化も人気で、ジブリやポケモンなどのグッズにも予想以上に興味を持ってもらえた。浴衣は多くの方に喜ばれ、よく写真撮影を求められて楽しかった。

この後の夕食のパーティーには、多くの参加者が民族衣装を着て参加し、国ごとに前に出て衣装の説明をした。テレビでしか見たことがない衣装、初めて見る衣装もどれも美しく、華やかなパーティーとなった。この日は、プログラムが終わってホテルに戻ってから参加者同士のおしゃべりが絶えず、会って数日しか経っていない仲とは思えないような、アットホームな時間を過ごすことができた。(小島)



Country Exhibition でけん玉を楽しんだり、カルタの説明をする様子

3 日目

最終日は Invited Lecture III, Group mentoring, Cultural Experience Program, Closing & Awards Ceremony といった内容だった。

Invited Lecture III は、気候変動に関する研究と女性科学者の役割についてだった。「女性は男性よりも気候変動を受けやすいため、女性科学者は早く気候変動問題の解決につなげようとする」という話が印象的だった。

Group mentoring では、10 人の参加者と 1 人の指導者でグループを構成し、「STEM (Science, Technology, Engineering, and Mathematics) の分野のリーダーに必要な要素」について話し合った。短い時間で意見をまとめて発表するのは大変だったが、グループメンバーが「リーダーシップを発揮するために必要なこと」をどのように考えているのかを聞くことができ非常に面白かった。

午後は Cultural Experience Program において韓国の文化の体験ができた。ハングルを様々な字体で練習



Group Mentoring の発表



ハングルを教わっている様子

し、配布されたエコバックに好きな文字を書いた。みんなの個性が発揮されて楽しい時間だった。また Hanbok という伝統衣装の体験もできた。

最後の Closing & Awards Ceremony では、開催中の写真のスライドショーが披露された。またポスター賞、OMP 賞、伝統衣装賞など、様々な賞が用意されており、受賞者はみな非常に喜んでいて、3日間盛りだくさんの内容で、本当に楽しむことができた。 (高澤)

感想

今回は私にとって初めての研究発表の機会でした。OMP およびポスター発表に挑戦してみましたが、わかりやすく相手に内容を伝えられず、もちろん議論を深めることもできず、悔しい思いをしました。今後別の学会に参加し、今度こそ有意義な議論をしたいと強く思いました。

またどの参加者も頭の回転が速く、普段の会話でも各国の文化の違いなど討論していました。私は彼女らの話題についていくのがやっとなので、自分に話題が振られても適切な回答ができませんでした。英語力の問題もありますが、たとえ日本語だったとしても普段から考えていないと答えられていなかったと思います。深く考え、相手と議論する力を身につけたいと思いました。

今回は自分に対して多くの課題が見つかりましたが、一方でかけがえのない友人ができました。異なる言語や文化・専門分野であっても、英語が拙くても、誠実に一生懸命に接すればいろんな人が耳を傾けてくれることを知り、自分に自信を持つこともできました。今回できた友人とは今後も連絡を取り続け、お互いの分野が必要になったときに仲間として何かのプロジェクトができたら素敵だと感じました。

末筆ではございますが、今回の大変貴重な機会をくださった日本女性科学者の会の皆さま、素晴らしいイベントを企画してくださった KWSE の皆さまには心より感謝申し上げます。 (高澤理子)

今回のキャンプでは、研究と文化交流の両方で充実した経験を得ることができました。初めのうちは緊張して他の参加者に声をかけられませんでしたでしたが、レクチャーで「シャイにならないで、積極的にコミュニケーションをとろう。シャイな人は『自信』がある自分を想像して演じてみなさい。」と言われたのが心に残り、これを心がけて色々な人と接することができました。例えば研究発表では、1回の説明で研究内容を理解してもらうのが難しく「そろそろ理解するのを諦められてしまうのではないかとヒヤヒヤしましたが、「自信を持ったつもり」で粘り強く説明しました。そして相手から質問され、最後に「面白いね。この研究まだ続けるよね？」と言われたときは非常に嬉しかったです。OMP では Best OMP に選出していただき、参加してよかった、と心から思いました。

今回の経験で、理系女性であることを通して世界各国の人とつながり、助け合えることを実感しました。今回得たことは、ぜひ日本でも日頃から心がけ、将来存分に発揮できるようにしたいと思います。 (小島摩利子)